

医療系高等教育・研究機関について

(平成 28 年 3 月「医療系高等教育・研究機関に関する懇談会」取りまとめ内容)

イベントゾーンの整備については、平成 26 年 9 月に「イベントゾーン整備の基本方針」が策定され、その中で整備コンセプト「知と文化・産業の交流拠点」とその導入機能の一つとして「高等教育や産業支援の拠点となる高等教育・研究機能」が示された。

当該整備コンセプトに基づき、本市が誘致を目指している高等教育・研究機関について、学校法人獨協学園から医療系高等教育・研究機関構想が提案されたことから、その内容について意見を求めるため大学関係者、医療関係者等で構成する「医療系高等教育・研究機関に関する懇談会」を設置することとなった。

平成 27 年度、3 回にわたって懇談会を開催し、医療系高等教育・研究機関に係る研究分野や組織体制などについて検討を重ねた結果、以下のように取りまとめた。

1 高等教育機関について

(1) 大学院研究科

① 医療系総合研究科

医療保健学専攻、薬学専攻、看護学専攻、経済情報研究科

※ 各専攻科の入学定員は 5～10 名（予定）

② 医療系社会人大学院

①の研究科に社会人入学を認めるもの

(2) 学部の高学年のサテライトキャンパス

① 文系（人間社会学群：第 3・4 学年）

医療法学、医療経営学のコースを専攻する学生を対象

② 医療系（医療保健学部・看護学部：第 3・4 学年、薬学部：第 5・6 学年）

併設病院等での実習生を対象

(3) 獨協医科大学分校

獨協医科大学（医学部、看護学部）及び大学院（医学研究科、看護学研究科）の姫路分校

(4) その他

① 市民講座

② 医療系リカレント支援センター

薬剤師、看護師等で一度離職した人及び再教育を受けたい人を対象

2 研究機関について

(1) 地域医療連携推進センター

- ・ 地域医療、公衆衛生の状況把握、分析、施策提言
- ・ 市民の意見・意識の調査 等

(2) 消化器内視鏡センター

- ・ カプセル内視鏡、レーザー内視鏡等の最先端医療機器の開発
- ・ 胃、小腸、大腸のカプセル内視鏡による診断、治療の研究
- ・ 胃がん、大腸がんのカプセル内視鏡、レーザー内視鏡による早期発見
- ・ カテーテル、腹腔鏡下の手術器具、医療用ロボットの研究開発 等

(3) 再生医療センター

- ・ 血管内皮細胞の応用による人工血管の開発
- ・ 日本人に合ったサイズの脊椎インプラント開発、国内技術による高性能・高品質脊椎インプラント開発 等

3 併設病院との連携・協働について

(1) 医療系高等教育機関

① 大学院研究科

- ・ 医療保健学専攻

併設病院と連携・協働しながら、理学療法学、臨床工学など医療現場に即した研究を行う。

- ・ 薬学専攻

併設病院と連携・協働してニーズを把握しながら、臨床薬効、分子病態学、ゲノム解析、衛生・微生物学、漢方・生薬学などの研究を進め、新たな医薬品等の開発・研究を行う。

- ・ 看護学専攻

併設病院と連携・協働しながら、精神看護・老年看護・小児看護等のフィールドとして研究を行う。

② 医療系学部の高学年

併設病院と連携・協働しながら、各学部の実習先の一つとして位置付ける。

(2) 研究機関

① 地域医療連携推進センター

併設病院との連携・協働のもと、地域医療、公衆衛生などの研究を進める。

② 消化器内視鏡センター

併設病院との連携・協働のもと、改良型カプセル内視鏡、レーザー内視鏡あるいは新しいタイプの内視鏡の開発と改良を進める。

③ 再生医療センター

併設病院との連携・協働のもと、血管内皮細胞の応用による人工血管、脊椎インプラントなどの開発及び評価と改良を進める。

(3) 併設病院に求める条件

- ① 薬学・看護学等医療系総合大学院のサテライト機能に対し、実習の場の提供や教育の実施等の連携が行える、一定の規模を有する総合型の高度専門医療を行う医療機関

- ② 研究機関の医師等研究スタッフと連携し、高度な研究を実施することが可能な専門的医療スタッフを有するとともに、臨床フィールドの提供等が可能な、一定の規模を有する総合型の高度専門医療を行う医療機関

4 県立大学等との連携・協力について

MEMS（微小電気機械システム）、バイオメカニクスなど県立大学が得意とする研究分野において、高等教育・研究機関、併設病院が連携・協力することで、地域の医療技術が向上するなど様々な相乗効果が見込める。

また、併設病院以外の医療機関との連携も含め、将来的には複数の研究機関によるコンソーシアム（共同事業体）設立も目指していく。